

研究報告 1

令和3年度 研究プロジェクト①

「子育てに困難を抱える家族への支援の実践と展開 —ペアレントトレーニング, PCIT, AF-CBT の実践を通して—

犬塚峰子・井潤知美・柳田多美・西牧陽子・保科保子・黒田大貴・飯島帆南・
旭未可子・石橋明

概要：本研究プロジェクトは、①よりよい子育て支援プログラムの提供、②専門家への研修会実施、③研究成果を臨床実践や大学教育に還元すること、の3つを主な目的としている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策は慎重に行いつつ、ペアレントトレーニンググループや養成研修を対面形式で実施した。AF-CBT（身体的虐待に伴う問題を抱える家族のためのプログラム）では第5回 AF-CBT ワークショップ2021をオンライン形式で実施し、全国からの参加を得た。また、地域関係機関で所員の西牧・保科がペアレントトレーニングアドバイザーを務め、各地域でのプログラム実践をサポートした。大学教育への還元としては、ペアレントトレーニング（親グループ）に臨床心理学専攻大学院生を実習生として受け入れた。また、教員の西牧を中心に、臨床心理学科2年次に必修となっている保育園実習の事前研修として、ペアレントトレーニングやPCITのスキルを活用した授業を実施した。

1. 子育てに困難を抱える家族への援助実践

家族への援助実践として、今年度は、ペアレントトレーニング（親グループ）およびAF-CBTプログラム（個別プログラム）を行った。

1) ペアレントトレーニング（養育者グループ、全10回）

第9期となる今年度はファシリテーターを黒田が、コ・ファシリテーターを飯島が務めグループを実施した（2021年5月～11月、全10回）。事前面接を経て5名の養育者がプログラ

ムに参加、これまでの参加者は計59名となった。

2) AF-CBT（家族のための代替案；認知行動療法／個別プログラム）

家族へのプログラム実践を継続（1組）するとともに、プログラムを修了した養育者2組のフォロー面接を行った。

2. 専門家向け研修の実施

1) ペアレントトレーニング

平成25年度から毎年、庄司敦子先生（まめの木クリニック心理士）と井潤（本学准教授）を講師として、専門家を対象としたファシリテーター養成研修及びファシリテーター養成アドバンス研修を開催している。今年度は新型コロナウイルスの影響を鑑み、オンラインでの実施となった。

ファシリテーター養成研修は9月25日、26日に開催し、13名の専門家が参加した。12月18日には、第6回ファシリテーター養成アドバンス研修を開催し、6名が参加した。継続を望む声が多数あり、来年度も引き続き養成研修ならびにアドバンス研修を開催する予定である。

2) AF-CBT

本研究プロジェクトにおいて2012年に国内への導入を実現したAF-CBTは、医療機関や児童相談所を中心に実践が広まってきている。導入当初より、研修は米国トレーナーや遠方からの参加者がオンライン形式で参加できるよう対面形式とのハイブリッドで実施してきたことから、新型コロナウイルス感染症の影響によるオ

ンライン実施への移行は比較的スムーズに進めることができた。

今年度は、10月15日～17日の3日間の日程で、第5回ワークショップを実施した。定員30名のところ60名の申込みがあり、選考の結果専門家38名が参加した。また、ワークショップの継続研修である Web コンサルテーション（月1回、

オンライン形式、全10回）および、これまでにワークショップに参加したことのある専門家を対象とした任意の勉強会（スタディグループ）をオンライン形式にて実施した。いずれの研修も講師は AF-CBT トレーナーの犬塚（客員教授）、保科（相談員）が務めた。

表1：各治療プログラムの概要

	①PCIT (親子相互交流療法)	②ペアレントトレーニング	③AF-CBT（家族のための代替案：認知行動療法）
目的	親子関係をよりよいものとするコツや工夫を学び、家族の抱える問題の解決を目指す		
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子 (子どもの年齢：<u>2～7歳</u>) ・DV被害、虐待や養育不全が起きている親子、問題行動がみられる子どもとその親。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親 (子どもの年齢：<u>4～10歳</u>) ・発達障害のある子どもの親。子育てに困難を感じる親。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子 (子どもの年齢：<u>5～17歳</u>) ・身体的虐待など不適切な養育がみられる親子、問題行動や攻撃的行動のある子どもとその親。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個別で実施。 ・効果的なほめ方、指示の出し方の工夫を学ぶ。 ・面接室で子どもと遊ぶ中で、学んだスキルを実践する。その際、親にはトランシーバーを利用して直接アドバイスや、スキルを上手に使用していることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで実施。 ・効果的なほめ方、指示の出し方の工夫を学ぶ。 ・ロールプレイを多用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別で実施。 ・暴力や暴言に代わるよりよい方法（代替案）を見つけ、実践する。 ・親子が家でより安全に過ごすための様々なスキルを学ぶ。 ・子どものトラウマからの回復に取り組む。
特色	<ul style="list-style-type: none"> ・親子が遊ぶ場面に直接働きかけるユニークな方法（ライブコーチ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで実施することで、親同士が学びあい、支え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国で身体的虐待への有効性が実証された数少ないプログラムの1つ

3. 地域関係機関との連携

日々の臨床実践における連携に加え、上述の専門家向け研修会の場において、子育て支援・家族支援領域で実践を重ねる専門職との交流を深め、連携を強化している。また、所員が地域自治体でのグループ運営をサポートし、担当職員との連携・協働を進めている。以下に、北区、

荒川区との協働について報告する。

1) 北区ペアトレ運営サポート

今年度も北区からの要請を受け、北区児童発達支援センターでのペアレントトレーニング参加者募集に先立って実施される区民向け講演会で保科が講師を務めた。

2) 荒川区ペアトレ運営サポート

荒川区心身障害者福祉センター「荒川たんぼぼセンター」では、昨年に引き続き西牧がグループ運営のサポートを行った（2021年10月～2022年1月，全7回）。次年度も引き続き，担当職員が運営するグループをサポートする立場で継続して支援を行っていく予定である。

4. 今後の展開

令和4年度も，慎重に感染症対策を行いながら，ペアレントトレーニングを含む各プログラムの臨床実践および専門家向け研修を実施する。

文 献

- 保科保子・犬塚峰子・西牧陽子（2014）：子育てに困難を抱える家族支援のために——虐待的関係にある親子のためのプログラム（AF-CBT）の紹介 カウンセリング研究所紀要，37
- 井濶知美（2013）：発達障害の治療的介入としての行動論的ペアレントトレーニング——その歴史的概観と今後の課題 カウンセリング研究所紀要，36
- 柳田多美（2011）：DV被害が終わってからの母子への援助：PCIT（親子相互交流療法）の紹介 カウンセリング研究所紀要，34

